

| | | | | | |
|---|-------------------------------------|----|------|--|-----|
| 新技術・情報名 | 佐賀県の認定種雄牛「勝二」号産子の生時体重に母牛の系統による影響はない | | | | |
| [要約] 佐賀県畜産試験場で生まれた「勝二」号産子について生時体重を調査した結果、母牛の系統による影響は認められなかった。 | | | | | |
| 畜産試験場・大家畜部・大家畜研究担当 | | | 連絡先 | 0954-45-2030 chikusanshiken@pref.saga.lg.jp | |
| 部会名 | 畜産専門部会 | 専門 | 飼育管理 | 対象 | 肉用牛 |

[背景・ねらい]

種雄牛「勝二」号は平成 25 年に佐賀県の認定種雄牛として選抜された。「勝二」号は増体型種雄牛として、その産子は去勢牛・雌牛ともに枝肉重量・脂肪交雑が県平均を上回っている。県内の繁殖農家に「勝二」号の利用を推進している中で、「勝二」号産子が過大になるとの話も聞かれている。

そこで、当場の雌牛と「勝二」号を掛け合わせたときに生まれてくる子牛の生時体重及び、生時体重が 40.0 kg を超えた子牛の産出数に系統間で差が出るか調査した。

[成果の内容・特徴]

1. 今回用いた子牛の生時体重の平均は 35.3 kg である(表 1)。
2. 子牛の生時体重に母牛系統による影響は見られない(表 2)。
3. 生時体重 40.0 kg を超えた子牛の産出数はどの母牛系統も同程度である(表 3)。

[成果の活用面・留意点]

1. H24.4~H28.1 までの分娩牛 60 頭を調査している。
2. 「勝二」号を用いた交配を行う際に活用できる。
3. 母牛の祖父系統との関連性は調査していない。
4. 調査した子牛のうち 16 頭は短期肥育試験に供用している。

[具体的データ]

表 1 生時体重に関する基本統計量

| | 例数 | 平均±標準誤差 (kg) | 最大 (kg) | 最小 (kg) |
|----|----|--------------|---------|---------|
| 全体 | 60 | 35.3±0.7 | 46.0 | 22.5 |

表 2 要因ごとの生時体重

| 要因 | 例数 | 生時体重 |
|------|----|----------|
| 性 | * | |
| 雄 | 37 | 36.2±0.8 |
| 雌 | 23 | 33.1±1.0 |
| 母牛系統 | ns | |
| 気高 | 26 | 34.8±0.9 |
| 田尻 | 18 | 34.7±1.1 |
| 藤良 | 16 | 34.3±1.2 |
| 母牛体重 | ** | |

1) 最小二乗平均±標準誤差

2) *:P<0.05 **:P<0.01 ns:有意差なし(以下同様)

3) 母牛体重は分娩2か月前の数値

4) 母牛体重:平均470.2kg、最大618.0kg、最小319.0kg

5) 系統は母牛の種雄牛を元に分類(以下同様)

表 3 生時体重が40.0kgを超えた割合

| 系統 | 例数 | 40.0kg超の割合 |
|----|----|------------|
| 気高 | 26 | 0.19(5頭) |
| 田尻 | 18 | 0.22(4頭) |
| 藤良 | 16 | 0.25(4頭) |
| 全体 | 60 | 0.22(13頭) |

(崎山将太)

[その他]

研究課題名:佐賀牛の低コスト生産を目指した短期肥育技術の確立

予算区分:県単

研究期間:2012年度~2015年度

研究担当者:崎山将太、狩又亮治、横尾直樹、小出繁夫